

女性の視点を取り入れた地域防災

かがわ自主ぼう連絡協議会
女性部部长 岡 静子

1 はじめに

令和 5 年度の総会で、配慮者利用施設等との訓練や研修の増加、さらに避難者への対応に女性の優しさや細やかな配慮が不可欠ということ、さらに男女共同参画の視点を導入することから「かがわ自主ぼう連絡協議会」に女性部が誕生して 1 年半となります。

香川県は災害が少ない県とは言われていますが、いつ南海トラフ地震が起きるかもしれません。日頃より防災活動に関わることが、いざという時に力を発揮できます。そして地域のつながりが大切な命を助けるということは、最近の風水害や地震などで避難生活を余儀なくされておられる方々の声からも大切であると認識されています。

女性部として活躍をされているお二人の実践例をご紹介します。

2 丸亀市城西自主防災会の取組

最近、各地で自然災害が多発しています。ニュースで災害に遭われた高齢の方々が良く口にしているのが、「今まで此処に住んでいるけどこんな災害に合った事はない。」と言われていた事です。気象状況や温暖化、生活環境が変わっているのは、皆さんもお気づきだと思います。

[1955 年 1 月 17 日、阪神淡路大震災発生時に北淡町では震度 7 を記録し多くの方が倒壊家屋の下に生き埋めとなったが、地元住民は生き埋めになった人の救助を自発的に開始。その結果瓦礫の下から約 300 名もの人を救出し、地震発生した当日の午後 5 時には行方不明がゼロとなり捜索救助を終了した。]という事例から地域社会の住民が日常の暮らしを通じてお互いの事を熟知しており、近隣住民で組織された消防団と共に瓦礫の下で埋もれている人の位置を正確に推定して速やかな救助を行う事が出来たと言う事です。(共助)

この(共助)の重要性が如何に大切であるかに気付かされ意識が高まった。更に、南海トラフ地震の発生率も高まり、各地域で自主防災組織の意識と実践力の強化を計る訓練をする地域が増えています。

丸亀市には、岩崎会長を中心に川西地区自主防災会が以前から活動されており、知識と実践力を兼ね備えて居られるので講師として指導や協力をして頂いている地域(コミュニティセンター)が多くあります。

私も城西自主防災会に所属しており、岩崎会長から県自主防災会に女性部設立に当たり入会のお誘いをいただきました。

中讃エリアでの活動は、県立丸亀高校、県立城西高校、県立坂出工業高校の生徒さんの防災訓練に地元の自主防災会の方々と共に参加し、これから先、大学や仕事でどの地で生活をして行く未来の子ども達に、知っている事で[助かったり、助けたり][力になったり、力を与えたり]と子ども達の財産になるのでみんな真剣に取り組んでいます。女性部は、応急処置(止血法、骨折時の対応、三角巾がない時の代用品の使い方)などの指導を担当しています。大きな災害時に医療関係者がトリアージを付けますが、その[緑色]のカードの人が対象の処置です。

9月27日に県立丸亀高校では、1年生を対象に、城西地区自主防災会の方々と川西地区防災会の方々と共に家具転倒防止、土嚢作り、ロープワーク、消化器訓練、簡易タンカ、応急処置、防災クイズを7ヶ所で行いました。

丸亀市自主防災訓練では、市内17地区の住民や丸亀市社会協議会の方々と共に大規模な防災訓練をしました。女性部は、薪割りしている木を斧でもっと細く割って燃やしやすくして、薪からの火起こしをし、ご飯と豚汁を作り、参加者に提供しました。災害時にはガスも電気も使えない事が多く、家屋の倒壊等が出る廃材を燃料にして手に入り易い物で火を起こす事で、温かい食べ物が食べられる事は、ストレス解消の1歩になります。又、災害時、温かい食事を口にすると激減しますし、体温も上げられます。外で火を起こす時の注意点や工夫、マナーもあり、私達にも基本的な知識を実践出来る良い機会になっています。

消防学校で自主防災会の勉強会では、カレーライスを提供しました。

丸亀市内の各コミュニティセンターが行う自主防災訓練や市立丸亀南中学校で生徒を対象の防災訓練にも参加しています。

西讃エリアでは、豊田小学校区の自主防災訓練にも依頼があり参加させて頂き、女性部は、応急処置を担当させて頂きました。

参加者は、幼児から高齢者までご家族やご近所さんが沢山参加されていて、各自治会単位で数ヶ所のブースをされていました。訓練を開催して何回かになるらしく、参加者の方からは、「回数を重ねる度にやり方が分かって来たわ。」とか「初めてでドキドキした。」と言う声が聞こえて来ました。

ご家族で参加した親子は、「パパの手を押さえて。」とか「上手にくくれたね。」とか言っていました。この一コマは和みました。

みんな一緒に、1回より2回と回を重ねて行く事で初めて聞いた事もやり方も理解出来るようになり、身体が覚えて行くので、何度でも参加して頂きたいです。学んだ知識を身近な方や知人の方々にもお話して共有して頂きたいです。

お互いに[今をこの地で生きて行く。]と言う強い意思で今後も訓練に参加し、ご自身からも他の人へ発信して頂けたら良いと考えています。
[知っている]事が[やっている]→[やれる]に行動が変わって行く事を切に希みます。

私は、ガールスカウトのリーダーもさせて頂いていますが、活動の中で[備えよ。常に。]を真っ当に[防災ガール]とか[防災センター見学]など自主防災にも取り組んでいます。年長さんから小、中、高校生、保護者の方々など県内のスカウト達と交流しながら学んでいます。自分ができる(自助)、みんなで助け合う(共助)、市、県、国などの支援(公助)を頂いて活動をしています。自主防災会の組織も一緒に、今、貴方が置かれている立場、環境でご自身の力を付けて行きましょう。



(文責 田邊 玉喜)

3 さぬき市自主防災会の取組

私たちの活動は、南海トラフ地震や異常気象という重大な脅威を前にした備えの一環として位置づけられています。これからの時代、自然災害への対策は一層重要性を増しており、私たち一人ひとりの意識と行動が求められています。

南海トラフ地震は、特に東南海地震と南海地震が連動して発生する可能性が

あり、数十年以内に起こると考えられています。香川県においても、強い揺れや津波による被害が予測されており、私たちはその準備を進めなければなりません。地震発生時の迅速な避難行動や、津波警報が発令された際の行動計画を家族で話し合うことが重要です。また、地域での避難所の確認や、非常食・水の備蓄（ローリングストックとして）を行うことも不可欠です。

近年、異常気象の影響も深刻化しています。猛暑や豪雨、台風の頻発は、私たちの生活に直接的な影響を及ぼしています。特に豪雨による土砂災害や河川の氾濫は、地域の安全を脅かす大きな要因です。このような状況に対処するためには、異常気象に対する理解と、迅速な対応策が必要です。

私たち女性部は、異常気象に関する知識を広めるための啓発活動にも力を入れています。例えば、地域の学校や団体と連携し、講演会や防災訓練を開催することで、より多くの人に防災の重要性を伝えています。特に、子供たちに対する防災教育は、未来の防災力を育てるために不可欠です。

女性部の活動は、単に防災知識を広めるだけでなく、地域のきずなを深めることも重要です。災害が発生した際、近隣住民同士の助け合いが生死を分けることがあります。普段からのコミュニケーションを大切にし、互いに顔を知ることで、災害時に迅速に協力できる体制を築いていきましょう。

また、防災訓練を定期的に行い、訓練を通じて、実際の避難行動や対処法を体験することで、いざという時の不安を軽減できます。特に子育て中の母親や高齢者を意識した訓練を実施し、誰もが安心して生活できる環境を整えていきたいです。

私たち「かがわ自主ぼう連絡協議会・女性部」は、今後も地域の防災力向上に向けた取り組みを続けていきます。南海トラフ地震・異常気象に備えた具体的なアクションプランを策定し、地域住民と連携して実行していく所存です。

さらに、私たちの活動が多くの人々に影響を与えられるよう、情報発信にも力を入れていきます。SNS や地域の広報を通じて、防災に関する情報や活動の成果を共有し、より多くの方々に参加していただけるよう呼びかけていきます。

災害はいつ起きるかわかりません。「災害がない時が備えるとき」私たちがいつも普段から備えることで、その影響を軽減することができます。

かがわ自主ぼう女性部として地域の皆さまとより良い防災対策を進めていきたいと思えます。備えることは、未来への投資です。共に力を合わせて、防災力の向上に努めていきましょう。

(文責 藤田 美鈴)

4 おわりに

女性部のメンバーは、現役の消防隊員、図書館職員、整体師、主婦、AI 技術者、元教員等様々ですが、従来の男性のみの組織とちがって、会議一つをとっても活気のある発言が増えたり、花が咲いたごとく明るくなったと岩崎会長から時折、激励をいただく機会があります。Line やチャットなど ICT に強いメン

バーもいて、グループラインがあつという間につながり情報も共有できます。

人口の半分は女性であり、女性の視点を反映することは地域の防災力につながると考えます。かがわ自主ぼうのメンバーはとても協力的で、男性の高度な知識や技術を教えていただいたり、助けていただいたりと男女で互いの視点を尊重・補填しながら身近なところから少しずつ日常生活とつながる内容で防災を身近に感じられるよう、また、研修したことを次に活かしていきたいと思います。

事務局だより

令和6年 11月

令和6年度 香川県総合防災訓練に参加

平成18年以来連続出場、今年は従来のみの参加に加え「炊出し訓練」として500食のカレーライスの作成を担い、更には約10年ぶりとなる小学生児童の参加と相まってそのお世話も担当、訓練終了からすべての後片付けを終えたのが午後5時30分、訓練参加者22名(男性14名、女性8名)は、疲労困憊の状態でした。

訓練の準備工程から振り返ってみました。

1. 訓練の前日(10月26日)

(1) 男性グループ・・・午前10時からの作業3名、正午12時からの作業8名

作業内容 ①防災倉庫から備品類(展示品)を抽出し、トラックに積み込み

(発電機6台、照明用機材、救出用機材、展示用パネル12枚脊)

②炊き出し機材(平口鍋3個、大型コンロ3個、羽釜6升用2個、5升用2個、地面保護用ブロック25個、鉄板3枚、燃料用マキ100kg)

③訓練参加小学校2校のテント機材、パイプ椅子60個

④炊き出し食事開場設営資材(テーブル20個、パイプ椅子45個)

以上の機材を軽トラック4台、2tロング1台に乗せ、訓練会場に向けて午後2時出発

(2) 女性グループ(6名)・・・午後2時から午後6時までコミュニティセンター調理室にて炊き出し食の下準備作業

作業内容 ①食材の加工(野菜カット)ニンジン40本(12kg)、ジャガイモ110個(16kg)
玉ねぎ150個(32kg)

②洗米作業 39kg(6kg x 4, 7.5kg x 2 に分けて袋づめ)

③豚肉 18kgを4cm巾にカット



2. 訓練当日

(1) 撤収業務

訓練終了後、炊き出し食による昼食完了後、丸亀から持参してきた訓練機材、展示機材、炊き出し機材をトラック 5 台に積み込み作業完了、午後 1 時 30 分訓練会場を出発

(2) 丸亀(川西地区)における収納業務

午後 2 時 30 分川西コミュニティセンター着、15 分間休憩の後

- ① 資機材を各倉庫へ収納
- ② 展示パネルは、センター内指定場所へ保管
- ③ 炊き出し用具 マキ使用のため真っ黒のすすをワイヤーたわしを使って洗浄
この作業は、長時間を要しすべての用品の作業完了は午後 5 時
(平口鍋 3 個、羽釜 4 個、それぞれのコンロ関係 7 個の洗浄)

